

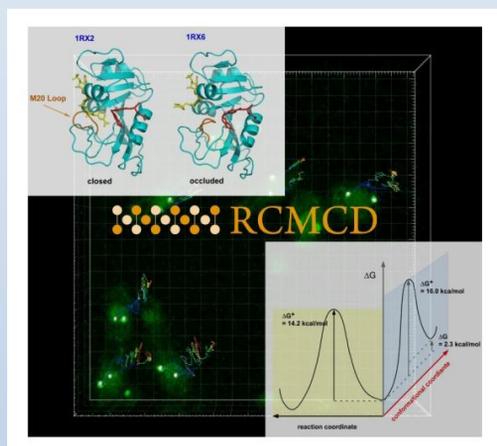
分子の動きに隠された機能制御機構

—タンパク質の動的構造研究からクロマチン動態数理研究へ—

開催日時

2013年11月26日（火）

12 : 10 ~ 12 : 50



話し手

楯 真一教授

（数理分子生命理学専攻）

要旨

タンパク質は、溶液中では複数の立体構造の間で揺らいでいる。その揺らぎはランダムではなくタンパク質構造そのものにより規定される特定の運動モードを持つ。主として結晶構造解析により明らかにされてきたタンパク質の立体構造は、液体窒素温度で「固まった」タンパク質の姿を示すのみであり、その立体構造に基づいてタンパク質の機能を解明するには自ずと限界がある。講演では、溶液中で揺らぐタンパク質構造がどのように機能制御にかかわるかを私の研究をもとにして概説する。

また、クロマチン動態数理研究拠点(Research Center for the Mathematics on Chromatin live Dynamics: RCMCD)での活動についても紹介し、クロマチン動態研究が私の研究の展開上にどのように位置づけられているかをお話する。

会場：理学研究科 理学融合教育研究センター(B107号室)